

新吉は外側へよけて、冷い鐵の棒に縋り付いてあやふく發車する間に扉をあげて飛び乗った。京都行きと書いてある。新吉は構はないと思つたのだ。

寒くてブル／＼顫へてゐた。

鏡を見ると顔が青白かつた。

何處へ降りようかと新吉は考へてゐた。

此の儘京都まで乗りつゞければ死んで了ふと思つた。

袴を穿いた少年のそばへ掛けて、東寺中學へ行つてゐると云ふ其の少年と話しをした。

異常な神經の疲れ方で、汽車の煙りで顔を洗ひたい様な氣持でゐた。

放心の状態だつた。

汽車がとまつた。

新吉は下車した。

何處かの驛で新吉は後手に縛られてヒコヅラれた。

汽車が來た。